

こやとはたほこいせき 19. 小矢戸旗鉾遺跡

所在地：大野市小矢戸・太田

調査原因：一般県道本郷大野線道路改良工事

調査期間：平成21年4月1日～10月30日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,810 m²

時代：弥生時代、奈良・平安時代、中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 小矢戸旗鉾遺跡は、大野盆地の北西端、赤根川左岸の微高地に立地します。

本遺跡の発掘調査は、中部縦貫自動車道建設事業に伴い、平成19年度から実施されてきました。今年度は同自動車道とそれに隣接する県道の建設に伴う発掘調査を行いました。ここでは、県道部分の調査において明らかとなった成果を報告します。

弥生時代 旧河道を2条検出しましたが、いずれも埋土に弥生時代後期の土器が含まれていました。この旧河道が埋没した後に、古代・中世の集落が営まれました。

古代 掘立柱建物6棟の他、土坑、ピット、溝、旧河道1条を検出しました。掘立柱建物は、ほぼ南北に棟をもちます。全て側柱建物ですが、重複しているものもあり建替えなどの時間幅が考えられます。土坑は、須恵器と土師器、赤彩土師器が一括廃棄されたものを検出しました。また、旧河道から、奈良・平安時代を中心とする須恵器や土師器が出土しましたが、墨で文字を書いた墨書土器も一定量出土しています。

中世 掘立柱建物1棟の他、井戸、土坑、ピット、溝、旧河道を検出しました。掘立柱建物は、桁行3間×梁間2間で北側に庇が付属します。井戸は、十数基を主に県道部分で検出しましたが、全て素掘りで上部断面が逆ハの字状のものと筒状のものに分かれます。このほか、東西にのびるやや幅広い溝を検出しましたが、この溝より南側では古代の遺構は確認できません。中世の遺物は、鎌倉時代と室町時代のものが多く占めます。越前焼や土師器皿が主ですが、青白磁の合子や将棋の駒、朱漆で扇文を書いた黒色の漆器椀も出土しました。

まとめ 県道建設に伴うため、南北に細長い調査区でしたが、中部縦貫自動車道建設事業に伴う発掘調査の成果と考え合わせると、古代には集落が整然と計画的に営まれたことや、識字層の存在を示す多量の墨書土器が出土していることから、当地に有力者が存在したことを示唆します。また、中世においても、掘立柱建物と多数の井戸を検出したことや、青白磁の合子と将棋の駒が出土したことから、一定の権力を持つ有力者により集落が営まれていたと思われます。これまで、古代から中世の遺物散布地としか知られていなかった小矢戸旗鉾遺跡ですが、発掘調査によって古代から中世を通じた拠点的な集落遺跡であったことが判明しました。

(木村孝一郎)



弥生時代 旧河道



古代 掘立柱建物



古代 土坑（遺物出土状況）



古代 旧河道



中世 掘立柱建物



中世 井戸



中世 溝



時代不明 土坑